

実施日：9月26日（3・4校時）	
領 域：総合的な学習の時間	
取組名：講演会 「対等な関係をつくろう～ デートDVを防止するために」	
対 象：3年生	実施場所：体育館
ア ねらい デートDVについての理解を深め、人を大切にすることを育てる。	
イ 指導内容や取組の概要 【講演内容の概略】 講師 NPO 法人女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ 三野敬子さん 平石みえ子さん 講演を聴いた後、講師の説明や質問票の記入、生徒たちによるDV関係の寸劇などで、DVの定義や怖さについて学ぶ。 【ねらい】 対等な関係や、自分らしさとは何かを理解させ、人を大切にすることを育てる。 【学び】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 交際相手からの暴力をデートDV（ドメスティックバイオレンス）という。 ・ 怖いと感じるなら、それは暴力を受けていると言える。 ・ 性的自己決定権を尊重する。 ・ 対等な関係を保つことが大切である。 	
ウ 連携先：保護者、青少年育成センター、警察、スクールカウンセラー	
エ 連携にむけての取組 DVに関しては、家庭や相談機関との連携が不可欠である。家庭において正しいDVに関する知識を持つことは重要で、そのため懇談会などで積極的に情報を発信するよう取り組む。また、被害対応に対して、青少年育成センター、警察、スクールカウンセラーなどと定期的に情報交換し、被害の兆候を見逃さないようにしている。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 全職員で共通理解して取り組むとともに、特に保健体育科においては、健康な生活と病気の予防の単元において、正しい知識の修得をめざした授業をおこなった。	
カ 評価の方法 生徒の感想文 [別紙⑤]	
キ 成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ DVについて正しく学ぶことで、初めての知識や困った時の対処の仕方などがわかり良かった。 ・ 生徒の感想からは、暴力はいけないことであるということや、相手の思いをしっかり受け止めて行動しようとする意識の高まりが見られた。 	
ク 課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒たちへの適切な支援ができるよう、教師側の研修が必要である。 ・ 生徒が実際の現場で事件にあわないよう、普段からの教育相談などを通してきめ細かな生徒の様子観察が必要。相手を思いやる心が育つよう、日々の指導の重要性を感じた。 	